

図書館展示計画委員会報告

平成20年度は、春季特別展、特別企画展及び秋季特別展を総合図書館1階展示室において開催した。

春季特別展

「百珍って何？—今に引き継ぐ江戸の食文化—」

平成20年4月1日(火)～5月18日(日)

昨今、テレビのグルメ番組は人気が高く、連日のように放送されている。また、食品の偽装問題が次々と発覚し、マスコミに大きく取り上げられ、社会問題となった。「食」は、我々の日常生活に深く関わることからであり、多くの人々が関心を寄せるテーマのひとつとなっている。

そこで、今展示では、江戸時代の「食」にスポットを当て、〈百珍物〉〈料理屋見立本（ランキング）〉〈江戸時代の料理本〉〈文学に見る食〉〈関連資料〉の項目に分けて43点を展示し、それぞれの観点から、江戸時代の食文化を概観できるようにした。

〈百珍物〉では、ひとつの食材をもとに様々な料理方法を記した初の料理本で、百種類の豆腐料理が紹介され、百珍物料理本の流行の端緒となった『豆腐百珍』天明2（1782）年をはじめ、百種類を超える卵料理を紹介した「卵百珍」とも呼ばれる『万寶料理秘密箱』天明5（1785）年や、様々なサツマイモ料理を記した『甘諸百珍』文化13（1816）年など、百珍物と言われる料理本を出品した。

〈料理屋見立本（ランキング）〉では、江戸時代の大坂の料理屋を番付にした「浪花料理屋号附録」「浪速御料理玉揃」などを出品した。

〈江戸時代の料理本〉では、以降の料理書に大きな影響を与えたとされる『料理物語』（複製本）をはじめ、『素人包丁』『料理通』などを出品した。

〈文学に見る食〉では、後の噺本や落語に影響を与えたとされる『醒睡笑』、井原西鶴の浮世草子で、町人物の代表作のひとつである『日本永代蔵』、弥次郎兵衛と喜多八が旅先で失敗や滑稽をくり返す十返舎一九の『東海道中膝栗毛』など、食に関わる記述がある作品を展示した。



『豆腐百珍』



「浪速御料理玉揃」

特別企画展

「内藤湖南—近代日本の知の巨匠—」

平成20年6月12日(木)～7月12日(土)

本展示は、本学のグローバルCOEプログラムである文化交渉学教育研究拠点の内藤湖南研究集会在、本学で開催されることにちなんで企画されたものである。本学図書館における内藤湖南に関する展示は、総合図書館の開館を記念して昭和60（1985）年4月～6月に開催された「内藤文庫」展以来、23年ぶりとなった。

東洋史学の泰斗であり、著名なジャーナリスト、一流の書家でもあった内藤湖南（1866-1934）は、旧南部藩鹿角郡毛馬内（現在の秋田県鹿角市十和田

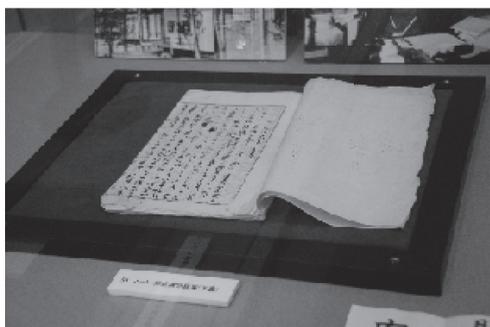
町)に生まれ、名は虎次郎、字は炳卿、雅号である湖南は生家が十和田湖の南に位置することにちなんだものといわれる。

今展示では、湖南の足跡に沿って、愛用していた文房具や外国旅行用鞆、自筆履歴書、書幅、著作、重要な辞令、還暦祝賀会名簿など、65点を展示し、湖南の業績や人となり、親交のあった人々などがわかるようにした。

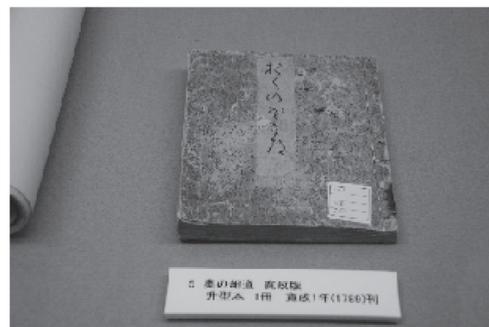
なお、今回、研究集会が開催された6月28日(土)を中心に、展示室の入場者数は、30日間の開催日数で942人を数え、1日あたりの平均入場者数31.4人は、入場者数の計数を開始した平成16年度以降最多であった。



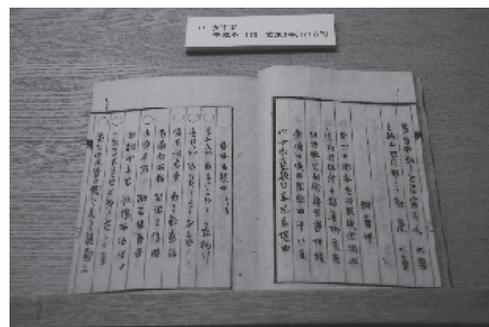
「中国旅行時の鞆」



「ノート：御進講原稿案（下書）」



『奥の細道』寛政版



『夜半楽』

江戸時代、俳諧は第一級の文学の地位を誇っていた。そのなかでも群を抜いて光り輝く存在が、松尾芭蕉であり、与謝蕪村であった。芭蕉は、俳諧を確立した作者として知らぬ者はなく、蕪村は、やわらかい絵画と心ませる俳句の両世界で多くのファンをもっている。また、俳諧の世界は、文学のみならず屏風や絵巻といった大作から、短冊や色紙といった小品まで、さまざまな俳諧的美術品を生み出してきた。

本展示では、芭蕉と蕪村を中心にすえ、昔の俳諧がたたえていた文化の香りを玩味してもらうことに主眼を置いた。展示した資料は、芭蕉生涯の集大成である「奥の細道」の諸本や『猿蓑』『笈の小文』などの俳書、「奥の細道」に深いゆかりをもつ多賀城碑の拓本などである。蕪村においては、故郷を思慕してよんだ名作「春風馬堤曲」を収載する『夜半楽』などの句集や自筆書簡などを展示した。そのほか、芳賀一品の画賛、彩色した魚介類の絵に発句を添えた『海の幸』なども合わせ、37点を出品した。

記念講演会では、藤田真一先生から、芭蕉が「多賀城碑」を「壺碑」と間違えて感激のあまり落涙までしたことなど、展示資料にまつわる興味深い貴重なお話を伺うことができた。

秋季特別展

「目で見える江戸俳諧の真髄—芭蕉・蕪村、そして俳諧の美—」

平成20年10月27日(月)～12月13日(土)

記念講演会

演題 「芭蕉と蕪村の「奥の細道」」

講師 藤田 真一教授 (文学部)

日時 11月17日(月) 13:00～14:30

会場 図書館ホール (総合図書館3階)